

新潟県

# 公民館たより

# 12

December 2023

No.828



## TOPICS

トピックス

### 令和6年度の関プロ公民館大会の 第1回実行委員会開催

11月8日(水)に上越市の直江津学びの交流館を主会場に、上越地域以外の市町村をオンラインで結び、R6年11月7日(木)・8日(金)に上越文化会館ほかで開催される関プロ公民館大会の第1回実行委員会が開催されました。来年の関プロ大会の正式名は、第64回関東甲信越静公民館研究大会新潟大会で、第46回全国公民館研究大会と第74回新潟県公民館大会も兼ねて行われます。今まで上越地域3市、上越教育事務所社会教育課、県公民館連合会会長・事務局長で準備委員会を3回開き、準備を進めてきました。今回の実行委員会からこれまでの委員に加えて、県公連加盟全市町村の代表公民館長に参加してもらいました。

会議の進行は県公連の五井事務局長が行い、はじめに久保田会長から「関プロ大会・全国大会の開催に皆さんから協力してもらいたい、皆さんから意見をいただきたいいい案を作っていきたい。」と開会のあいさつがありました。

協議事項では、上越市の宮崎参事が令和元年の新潟県での開催決定からこれまでの準備状況、特に昨年度からの第1〜3回準備委員会での内容及び大会概要を説明しました。



主会場に上越地域などの13名が集合



左から 上越市の宮崎参事（主説明者）  
岩野館長  
県公連の久保田会長  
五井事務局長

### 大会概要について

- 1 大会テーマ 「公民館のチカラ」  
〜未来につなぐ、未来をつくる公民館〜
- 2 全体会  
全体会 アトラクション 小竹勇生山社中による警女唄の演奏  
記念講演 千葉大学名誉教授・特任教授 長澤成次さんによる講演  
特別対談 長澤成次さんと角野仁美さん  
(NPO法人みらいずworks理事)
- 3 分科会 (①〜⑤は分科会テーマ)  
① 人づくり・地域づくりと公民館  
② 人口減少社会における公民館  
③ 学校と公民館  
④ ICTと公民館  
⑤ これからの公民館  
司会進行 司山園美さん(新潟市社会教育委員)
- 4 オンラインによる質疑  
質問:「参加費について確認したい。」  
回答:「県内参加者3,000円、県外参加者3,500円とする。」
- 5 実行委員会組織の決定  
「実行委員会規約(案)」をもとに県公連事務局長が説明し、規約は承認。  
・実行委員長に久保田会長を選出し、副実行委員長に岩野、渡部、佐久間の3名の県公連副会長を指名。  
・監事に県公連の窪田、渡邊の2名の幹事を選出。実行委員会は県公連の役員、上越地域3市の職員で組織。事務局は上越教育事務所、県公連、上越地域3市の各職員で組織。
- 6 委託旅行者からの情報  
委託旅行者の日本旅行からの「見積書」や「長野大会資料」をもとに説明。  
・これから日本旅行担当者へ仕様書を提出し、ホテル手配等を依頼。
- 7 第2回実行委員会はR6年2月9日(金)の県公連評議員会終了後に新潟市中央公民館で開催。  
最後に、岩野副実行委員長(上越市立中央公民館長)が「3回の準備委員会を経て1年前に実行委員会の開催に至った。まだまだたくさん決めることがあるので、ご協力をお願いしたい。長野大会では参加者698人、スタッフ136人だった。新潟県の皆さんには大会運営や大会参加に協力をいただきたい。」と閉会のあいさつを行いました。



# 公民館は人が変わり社会を変えていく運動

内田 光俊 (岡山市立西大寺公民館長・)

日本公民館学会副会長)

## はじめに

皆さんはチャットGPTが使われたことがありますか。AIの進化で、今ある仕事のうち半数近くは10〜20年のうちになくなる、格差もさらに拡大するだろうとも言われています。国連事務総長が「地球沸騰化」の時代に入ったと宣言したように、かつてない自然災害すら起こりうる時代に入っています。

一方で、新型コロナ感染症で人々のつながりが切れ、公民館も止まる事態を私たちは経験しました。手をこまねいていた公民館、積極的に新たな試みに挑戦した公民館と、その違いが誰の目にもはっきりしました。新たな大きな変化の時、立ち尽くすのか、変化に即応して公民館の事業そのものも変えていくこととするのかが問われたのでした。動かなかった動けなかった公民館のままでは、これからの大変動の時代に未来は切り拓けないということ、全国の公民館関係者が体験的に理解したと思います。

## 改めて公民館の存在意義が問われている

筆者は3年ほど前から、文部科学省からの依頼を受けて、優良公民館表彰の審査員を務めています。その評価の観点として、地域づくりへの貢献が重視されるようになっていきます。しばらく前から文科省以外の省庁から公民館への熱い期待が寄せられています。それは建物として、住民が自由に使い地域を活性化するための拠点としてのようです。公民館表彰で選ばれる館に、公民館以外のOSSセンターが増えていることも、このことに関係している気がします。

そんな中だからこそ、改めて公民館の存在意義、役割が問われるし、職員がどう働くべきかを問われるのかも問われていると考えるでしょう。

では、公民館はそもそもどういふものと問われれば、筆者なら単なる箱じゃない、事業をするからの公民館と答えます。その事業は何のためにやるのと問われれば、大きく変動する社会の中で、社会が持続可能になるよう創りかえ、人々が支え合って幸せに暮らせるようになるための、人と人のつながり、語り合い、学び合いの場を創り出すことと答えるでしょう。

皆さんもご自身の公民館の仕事の中で、ああ、あの人これに参加して変わったよねえと実感されたことがあると思います。学びで自分を変える体験、そんな人が増えて少しずつ社会が変わっていく。知るだけでなく行動することで、そこから学び、さらにつながりを広げていく。そんな取り組みが様々な分野で広がっていくことに貢献することが必要でしょう。でも、最も大切なポイントは、その主体は住民だということです。

このプロセスの大切さを自覚して、一緒に学びつくり取組む人を不断に増やしていくこと、それを「運動」と呼ぶわけですが、そんな取組みを住民と職員で担っていくことが公民館の本質だと考えるのです。それを一言で言うと、標榜の

「公民館は人が変わり社会を変えていく運動」ということになるわけです。

## 運動としての公民館に大切な事

岡山市の公民館は中学校区に一館あり、その全館に正規職員の社会教育主事を配置する方針を堅持しています。この優れた態勢は、住民と公民館職員の長年の「運動」によって実現したものなのです。人々の学びを広げ社会の仕組み良い方に変えていく「運動」がなければ、人口減少で財政も縮小する中で、公民館は維持できないかもしれません。

では、公民館「運動」に必要なものは何でしょう。それは、展望となるビジョン、その実現のための手がかりと発想の転換ではないでしょうか。

まず必要なビジョンとは何かというと、公民館がこうありたいという姿を住民と職員で描くことです。ポイントは住民自身が公民館を考えて描く、デザインするということです。そのための学びの場創りはもちろん必要でしょう。これは実はまちづくりでも同じことですが。

次に何を手がかりにするかです。提案はSDGsをコミュニケーションツールとして使うことです。誰とコミュニケーションを図るのはテーマによって、学びの主人公たる住民自身はもちろん、学校や企業、NPO、自治体の他の部局や機関等と色々と考えられます。SDGs

のターゲットを足元の問題に引き付けて課題化して取り組むことが大切で、その取り組みは公民館単独では成果は上げられないので、幅広い協働の取組が必要だからこそ、コミュニケーションも必要になるわけです。

描いたビジョンと今の現実との差が問題ですから、その問題を解決するための課題を設定して、みんなで取り組むこと。これはESD（持続可能な社会づくりのための学び）が大切にするバックキャストイングの考え方ですが、SDGsの達成にも必要な考え方です。それを公民館の事業展開に当てはめると、講座でなくプロジェクト型の事業を進めることを意味します。

次に発想の転換とは、公民館に色々な人に来てもらうという発想から、どこでも公民館活動を作れる（「スーパーde公民館」とか「学校de公民館」等）と考えること。学校の授業で子どもたちが地域について調べ考えたことをもとに、大人も入って一緒に語り合い学び合うことだとして、立派な公民館活動ですし、本質的に大切なESDの実践になります。そこに参加した子どもたちやおとなの変容をきちんと描くことも大切です。

転換すべきことのもう一つは、P D C Aでなく、O E C Dが提唱している「A A R」（字数の関係で、自分で検索して学んでみてね）のしくみです。バック

キャストイングとA A Rを組み合わせてプロジェクト型で事業を展開すること。これがポイントだと考えています。

**自分自身も変わらなきゃ**

学校ではO E C Dが言う「エージェンシー（自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力）」を子どもたちが身につけるための努力が進んでいます。地域や公民館もそのことを理解して、住民がその力を身につける努力も大切になっていきます。これは、学校と地域の協働の大前提になることです。

岡山市の公民館は、2005年くらいから、全館でESDに取組んできました。その実践の蓄積があつて、国連ESDの10年の最終年合会の岡山市開催や、ユネスコ日本ESD賞、ユネスコ学習都市賞の受賞にもつながりました。そして今は、SDGsの達成に貢献するという公民館基本方針を作り、実践を進めているところだとして、そこでのポイントは、講座型からワークショップ型へ、そしてプロジェクト型への変容です。ワークショップ嫌いな人が増えていると言われています。もう少し時間をかけて調べたり学んだりすれば、もっと良い意見が出せたのにこれだいいのと思う人が多い。そこには語り合いをベースにした学び合いが必要で、それは、行動を通じて住民自らが調べて

持ち寄ってくるような学びです。そんな学びの場を創り、プロジェクト型で地域の問題解決にアプローチしていく。そのために、公民館と職員も変わることが必要だと思えます。

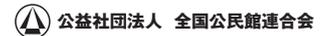
**おわりに**

SDGsの時代に、自治体だって今のままで良いわけはありません。古いお役所体質を残していたり、住民本位でないところもあるでしょう。住民自治に支えられ、住民と共にボトムアップで進める民主的な自治体づくりは課題であり続ています。自治体のあり方を良い方向に作り変えていくことは、住民自身の課題です。と同時に、それは住民の学び合いとまちづくりの実践の中で作られる自治の力の高まりなしには実現しないわけで、自治体自体の社会教育化の課題も忘れてはならないと思います。

その時、公民館に集い学び住民の力が自治体全体で結集されることは、公民館と自治体自身を変えていく大きな力になると考えているのです。

どうです、すこしわくわくしてきませんか。私たち公民館職員が変わることで見えてくる可能性を、さらに皆さん同士で語り合っていたただけると嬉しいですね。

**公民館総合補償制度**



この制度は公益社団法人全国公民館連合会の団体制度です。市町村の公民館および自治公民館、また公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたその他の施設等は名称を問わずご加入いただけます。

**3つの補償で公民館活動をサポートします。**

- 1. 行事傷害補償**  
全公連見舞金制度  
+ 災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約)
- 2. 賠償責任補償**  
賠償責任保険(施設所有管理者特約、昇降機特約)
- 3. 職員災害補償**  
全公連見舞金制度+傷害総合保険  
【就業中のみ危険補償特約、入院保険金支払限度日数変更特約(支払限度日数180日)】

**補償範囲や対象者が広い制度です。**

**年1回の手続きで安心です。**

**掛金には割引制度もあります。**

\*このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳細については取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。

■取扱代理店 **エコー総合補償サービス株式会社** 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9  
TEL: 0120-636-717(通話料無料) FAX: 0120-226-916(通話料無料)  
(受付時間:平日9:15から17:00まで)

■引受保険会社 **損害保険ジャパン株式会社** 営業開発部第三課  
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL 03-3349-3820(受付時間:平日9:00から17:00まで)



(SJ22-11969) 2022年12月27日作成 [2212K-6]



趣味を持って集まる

仲間づくり

(燕市文化協会

文化部吉田支部)

私たちの団体は、燕市吉田地区の社会教育施設を拠点に活動する各団体・サークルを取りまとめている組織です。主に、毎年秋に吉田地区文化展を開催し、各々の活動の成果を発表し合っています。

今年の4月、吉田公民館は10か月間の改修工事が終了し、改装オープンしました。早速文化部吉田支部では、キレイになった公民館で再び活動できる喜びと、日ごろの活動の成果を披露するため、公

民館ロビーで6月1日から約1カ月間、イベントを開催しました。各団体の作品を9回入れ替えてリレー展示したことをはじめ、体験コーナー、見学会、コーラスのミニコンサートなどを行い、来場者は総勢930人になりました。年間予定にない急な企画でありながら、所属する21団体が気持ちよく参加し、各団体の底力とも言えるエネルギーを感じることができました。

の垣根を越えて声を掛け合い、仲間づくりをしています。趣味をもって、仲間を作り、元気な笑顔で楽しい時間を過ごせる場所である公民館に感謝です。キレイになった公民館を一人一人の心がけて守っていきます。

(支部長 赤川レイ子記)



4つの生け花サークルが交代で参加



パッチワークサークルの展示

# 視点

## 「不易と流行」

下越教育事務所社会教育課

課長 鈴木 智博



これまで、たくさんの方々に助けていただきながら社会教育に携わってきました。新たな出会いや様々な繋がりを発見することができ、改めて社会教育の推進には人と人とのネットワークが大切であると実感することができました。

今年八月に村上市で開催された県公民館大会には、私も微力ながら、事例発表の講師をさせていただきました。糸魚川市田沢地区公民館、弥彦村公民館、

新潟市関屋地区公民館でした。三市村ともウエルビーイングの実現に向けた生涯学習・社会教育の推進を意図した素晴らしい取組でした。

「不易と流行」。以前の私はどちらかというと「流行」を意識していました。「新しいことへの挑戦」を意識するあまり、活動の目的に立ち返る視点が不足していたように思います。しかし、新型コロナウイルス感染症により様々な活動が休止するな

ど社会が大きく変わり、新たな対応が求められる中、社会が変化しようとも変わらない価値「不易」は何かということを意識するようになりました。

新型コロナウイルス感染症が五類に移行後半が過ぎ、様々な感染症対策の制限が緩和され、以前のような活気が戻りつつあります。各市町村の公民館活動も活発な取組を始めることができるようになりました。県民が「だれでも、いつでも、

どこでも」学べる、学んだ成果を活かし適切に評価される、生涯にわたり学び活躍できる循環型生涯学習社会の実現という「不易」に、社会の変化に対応した新たな取組「流行」を取り入れ、社会教育の推進に取り組んでいただければと思います。今後も各市町村公民館相互の連携を深め、「不易と流行」を考慮しつつ各市町村の公民館活動がさらに充実するよう微力ながら尽力して参ります。



ひな飾り（椿寿荘での展示）



ひな飾り（道の駅での展示）



ひな飾り（交流会館での展示）



ひな巡りにこころ

令和4年から道の駅たがみ、椿寿荘、田上町観光協会として、田上町公民館が連携し、毎年2月上旬から3月下旬にかけて、各施設でひな人形やつるし雛等を飾り、町内外の方から各施設を巡ってもらい、

実践記録シリーズ

たがみひな巡りと公民館

田上町公民館



和布細工での飾りづくり講座

公民館としての取り組み

公民館として、ひな巡り実施に向け、和布細工で作成する飾り作りを2回シリーズで実施しました。募集すると町内を始めとした多くの方々からの参加がありました。参加者の中には、初めて針と糸を扱う方もいらっしゃいましたが、黙々と皆さん夢中で

田上町を知ってもらおうきっかけや、田上町の新たな魅力を発信する取り組みを実施しております。椿寿荘では大広間で、町内各家庭から寄付していただいた3段、5段、7段、親玉飾りをはじめとした、ひな飾りを展示し、枯山水の園庭とひな飾りのコラボレーションは「和」を存分に味わう事が出来て、とても素敵です。道の駅たがみにおいては、入口や食堂の天井に花や動物などをかたどった手芸品のつるし雛を約2500個展示し、買い物や食事を訪れる方々の目を楽しませてくれます。そして、田上町交流会館（公民館）では、町内の小学生、高齢者施設を利用する方々、交流会館で活動するサークルの皆様が作成した、色とりどりの折り紙のつるし雛が、施設をとても華やかに飾ります。



和布細工飾りの作品展示



田上町交流会館コンサート

取り組んでおられ、素敵なたるし雛を完成することが出来ました。また、ひな巡り期間中には、「田上町交流会館コンサート」を開催し昨年は、交流会館で初めて津軽三味線による演奏を行いました。津軽三味線の代名詞である「津軽、しょんがら節」をはじめ、ひな祭りにちなんだ曲等を町内外の多くの方から楽しんでいただきました。

折り紙によるひな作りを通し、町民から「私も参加したい」「自宅で作った折り紙を飾って欲しい」等の声を多くいただき、関心の高さや地域の力を再発見する事が出来ました。今後、ひな巡りを通して、町内各地域を始め、町内外の交流やつながりの輪が広がっていくことが期待でき、とても楽しみです。

令和5年度の取り組み（予定）

3回目となるひな巡りは、令和6年2月上旬から3月上旬まで開催予定です。道の駅たがみ、椿寿荘、田上町交流会館（公民館）の3施設に加え、町内の旅館も参加する予定です。公民館では、期間中、つるし雛作りを始めとしたワークショップやコンサートも開催します。詳細については後日、田上町ホームページに掲載します。多くの方々からのご参加お待ちしております。

# 素顔拝見



村上市荒川地区公民館

(村上市教育委員会生涯学習課)  
社会教育指導員 野澤 香さん



今年度の県公民館大会で永年勤続者表彰を受賞された、村上市荒川地区公民館に勤める野澤

香さんを紹介します。野澤さんは社会教育指導員として13年目(自称3年目)のベテラン指導員さんです。

主に家庭教育支援事業、青少年健全育成、図書室業務を担当しており、地域の方との関わりがあつて成り立つ公民館という仕事、その関わり合いから自分自身が成長する毎日にとてもやりがいを感じているそうです。

市役所の電話交換手をしていた際、社会教育指導員としてスカウトされ公民館の世界へ。初めは文書の作り方も分からず悪戦苦闘の日々でしたが、職員の方からの指導や勤勉な性格、持ち前の明るさからあつという間に荒川地区公民館に欠かせない存在となりました。今では地元出身の職員よりも荒川地域を知っており、同僚からは「野澤さんに聞けば解決」「とても面倒見がいい人」として親しまれています。元気の秘訣はほぼ毎日行っているウォーキングとのこと。これからも荒川地区公民館の頼れるベテラン指導員として公民館事業の先頭を歩いていきたいです。

〔村上市中央公民館 園部 清貴記〕

## i インフォメーション i

新潟県立生涯学習推進センター

### 「いきいき県民カレッジの終り」

「いきいき県民カレッジ」は、県及び市町村・高等教育機関・民間等で実施している生涯学習に関する事業を体系化し、県民に対して学習機会を効果的に提供することを目的とし、平成4年に開学いたしました。

それ以来、多くの県民の方々からご利用いただいておりますが、昨今の学習環境の変化を踏まえ、令和5年度をもって終了することとなりました。

### いきいき県民カレッジ

令和5年度末にて終了のお知らせ



奨励証の受付は **令和6年3月12日(火) 必着** です。  
希望される方は早めの申請をお願いします。



※なお、3月実施の講座や活動を含む場合は、令和6年4月30日(火)までの申請が可能です。

いつも「いきいき県民カレッジ」をご利用いただき、誠にありがとうございます。  
「いきいき県民カレッジ」は**令和5年度末をもって終了**することとなりました。  
ご利用いただいております皆様には誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解いただけますようお願い申し上げます。

<問い合わせ先>  
新潟県立生涯学習推進センター いきいき県民カレッジ事務局  
Tel : 025-284-6110 Fax : 025-284-6019 E-mail : niipc@mail.lalanelt.gr.jp

「いきいき県民カレッジ」の累計受講者数は二百五十万人に達し、奨励証を受賞した方々も延べ一万四千人にのぼり、多くの県民の方々にご利用いただきました。  
これまで県や各市町村などの社会教育関係者の皆様からのご協力を賜り、生涯学習社会の実現に向けて一緒に歩んでまいりました。今後も、お手伝いいただけることを切に願っております。  
県民の皆様におかれましては、「いきいき県民カレッジ」の終了後におきましても、様々な学びの機会に引き続き参加され充実した毎日を過ごされることを願っております。

### 編集後記

12月14日(木)に今年度の関プロ公民館大会を主催された長野県公民館運営協議会事務局に、大会準備や運営について情報収集に伺いました。新潟県から県公連会長・事務局2名、上越市の館長・職員2名の計6名、長野県から県公連会長・事務局2名の計3名の出席でした。作成文書のデータなど多くの資料をいただき、ノウハウもお聞きでき有意義な訪問でした。長野県では大会の3週間前に130名を超えるスタッフの合同会議や予行をされたそうで、身の引き締まる思いでお聞きしてきました。新潟県でも皆さんで力を合わせて、来年11月の上越市での関プロ大会に向けて頑張っていきたいと思います。(五井)